

世間を驚かせた『世界最薄』^{※01}というシチズンの野望
乗り越えた先に見えた
異次元のフォルム

HANAJIMA × CITIZEN Eco-Drive One

プライドをかけて造ったこのモデルは
まさにメイド・イン・ジャパンの「傑作」

シチズンが社運をかけて開発したといっても過言ではないエコ・ドライブ ワン。「世界最薄」への長きに渡るチャレンジは、ケースの厚みがわずか 2.98mm という数値で実現されることとなった。シチズンの、このエコ・ドライブ ワンに対する思い入れがどれほど強いものだったのか？ それは実際に作られる過程を見ればわかるはずだ。一粒のコメの十分の一にも満たないような各パーツたち。それらを作り出す機械ですら、新たにこのモデルのためだけに開発されたわけである。いわゆる他のモデルからの流用がきかない、専用パーツの集合体というわけだ。そしてその極小のパーツたちを、ひとつひとつ人の手で組み上げられるという途方もない作業。花島社長が「メイド・イン・ジャパンの「傑作」と称するエコ・ドライブ ワンの魅力には、ただ単に世界最薄という称号だけでなく、それを現実化するに至るまでの過程こそ大きな意味と、それを可能としたシチズンの底力が潜んでいるのである

※01：2017年9月現在、シチズン時計(株)調べ

※02：2.98mmというのは設計値。実際の商品は公差の関係で設計値より最大0.22mm厚くなる場合があります。

エコ・ドライブワンのケース厚はわずか※02・98ミリ。この厚みの中にはダイヤルや針、サファイアクリスタルの風防、そしてバックケースやムーブメントの厚みも含まれている。またエコ・ドライブワンのムーブメントは、シチズンが1976年に世界に先がけて商品化したエコ・ドライブの最新進化版が搭載されているのだ。光発電式のエコ・ドライブムーブメントには、わずかな光でも発電するための精密なパーツや、発電した電気を蓄えるバッテリー（二次電池）、さらには動力部のローターなどが組み込まれている。それでもムーブメントの厚みは1ミリに収まる。ちなみにこの薄い光発電ムーブメントは、いったんフル充電すると12カ月間は正確に動作を続けるという。そしてシチズンでは、このエコ・ドライブワンのムーブメントのためだけに、微細で極小のパーツをすべて内製し、ひとつひとつ、熟練のスタッフがの手で組み立てられている。

極限まで贅肉を削ぎ落とし、たどりついた究極の機能美

さらにエコ・ドライブワンは、しかも……というが、当然軽い。2016年に800本の限定で発売した記念モデルは27グラムしかなかった。2017年9月発売モデルは35グラム。ステンレス・ブレスレットタイプの既存モデルでさえ78グラムだ。しかし、充分な剛性と防水性（日常生活防水）を確保している。つまりエコ・ドライブワンは十分に日常で使えるのだ。フォーマルなパティのためだけにあるドレスウォッチのような、あれこれ制約のある「薄型」とは違って、機動力もある。

わずか2.98mm厚のケースに収めるムーブメントは1.00mmと極めて薄い。また9月発売のAR5025-08E、AR5026-05A、AR5024-01Eは、従来モデルとはケースデザインを部分的に変更し、視覚的にもさらに薄く感じるようになっている。下の写真は使用されるパーツがどれほど小さいかわかるショット。中央の白いものが一粒の米。左のコイル、右の歯車がいかに小さいかわかるだろう。シチズンではエコ・ドライブワンのためにすべてのパーツを内製し、蓄電用の二次電池もエコ・ドライブワン専用で日立マクセルと共同開発。この特別な腕時計の作製には、シチズンが誇る熟練の職人があたる。



WATCH-SESSION
"MAKER-SHOP"
人気ウォッチ再検証

飾り立てるわけではないのに、とびきりの美しさ メイド・イン・ジャパンの「傑作」です

ハナジマ
花島 素人 さん

「世界中のウォッチブランドが、とにかく薄く、軽い腕時計を競った時代があったんですね。いつの間にかフォーマルウォッチを除いて、この競争からほとんどのメーカーは脱落してしまいました。ですが、シチズンは競争から決して下りなかったんです」
ハナジマの花島社長は2.98mmにまとめたエコ・ドライブワンを初めて見たときには「さすがに驚きましたね」と言う。そしてさっそく個人のコレクションにエコ・ドライブワンを加えた。「薄いだけじゃないし、軽いだけでもない。また便利だけでもないですね。私は近年の腕時計の中でも、傑作のひとつだと思います。誇れるメイド・イン・ジャパンですよ」



今まで薄型はノーマークだったけれど エコ・ドライブワンは「押し」ですね

ハナジマ 花島 賢 さん

花島 賢さんはハナジマの男性スタッフで最年少、まだ20歳代だ。「個人的にはデカ厚のほうが好きです。薄いドレスウォッチの多くはおじさん臭いなぁと感じます。でもエコ・ドライブワンだけは別ですね。ひと目惚れしました。若い人が着けてもぜんぜん違和感ないですよ……というか、ぜったいにモチ時計です。ボクだったらステンレス・ブレスレットのタイプを選びますね。汗の季節もふだん使いたいですから」この日の花島 賢さんは仕事用のスーツ姿。「スーツでももちろん合うし、カジュアルでも悪くないですよ」と推奨する。



2017年バーゼル発表の最新モデルがついに発売

写真右からAR5025-08E、AR5026-05A、AR5024-01Eはいずれもシリーズ第2弾として2017年のバーゼルワールドで発表されたタイプ。2.98mmというケースの薄さももちろん驚かされるが、クロコダイルレーザーのストラップも含めた上質な仕上がりにも目を奪われる。実際に触れてさらに驚かされるのが35gという総重量。国内販売は9月に始まっているものの、現状はかなり品薄。ケース径:39mm。SS×サマーメット。エコ・ドライブ。日常生活防水。43万2000円



デカ厚とは真逆のところで芽生えた 「超薄」という腕時計の新たなトレンド



WATCH-SESSION
"MAKER-SHOP"
人気ウォッチ再検証

金属ブレスレットの従来モデルでも 総重量はわずか78gの超軽量

昨年のバーゼルワールドがワールドプレミアムだったエコドライブ ワンの第1弾(右からAR5004-59H、AR5000-68A、AR5000-50E)。ケースサイズは径:39mm×厚:2.98mmで、メタルブレスレットが標準となる。2017年追加モデルより重いとはいっても78g。着けていることをすっかり忘れそうになる軽さだ。SS×サマーメット。エコドライブ。日常生活防水。37万8000円



エコドライブ ワンとハナジマの
コラボキャンペーンが開催中

「世界最薄」で「超軽量」で「エレガンス」で「抜群の使い勝手」。これだけキャッチーなポイントが揃ったエコドライブ ワンがヒットしないわけがない。実際に2016年のファーストモデル発売以来、限定の記念モデルはすでに完売して、ファーストモデルの標準タイプもずっと品薄の状態が続いている。2017年9月発売のセカンドモデルについても、その入手困難ぶりは半端ではない。

「すべてのパーツがスベシャルで、組み立てにも最新の注意が必要な腕時計ですから、人気があっても製造数は増やせないという事です。しかしエコドライブ ワンは、近年のニューモデルの中でも間違いなくトップクラスの傑作ですよ。もっとたくさんの人に知ってほしいし、お求めやすくなりたいと思います」

ハナジマ(東京・江戸川区)の花島社長は、だからあえて超人気モデルを対象に購入キャンペーンを企画した。

エコドライブ ワンはシチズン製品正規取扱店の中でも限られた特約ショップでのみ扱っていて、ハナジマもそのショップのひとつ。今回のキャンペーンでは支払いが現金でもローンでも特別に優遇されるほか、シチズンの全面協力による「おまけ」も付いている。

「タイミングによってはお待たせしてしまうこともある人気モデルですが、できるだけお待たせせずにご購入いただけるように考えております」

どうやらエコドライブ ワンはハナジマで買うのがお得なようだ。

👉 [だから買いたくなるハナジマの特典]

エコドライブ ワンの特約店であるハナジマでは、セカンドモデルの発売(2017年9月)を記念して、ハナジマ×エコドライブ ワンのコラボキャンペーンを実施している。なかなか実機を近くで見ることがないという人は、ぜひこの機会にハナジマに足を運んでほしい。キャンペーン中は何かとお得で、シチズン純正の「おまけ」もある。
※キャンペーンの詳細、期間、限定数などは直接ハナジマへお問い合わせください。

「ハナジマ×シチズン エコドライブ ワン コラボレーション」

- ◆現金購入のお客様へ
購入金額の15%分のハナジマ商品券をプレゼント
- ◆ローン支払いで購入のお客様へ
最大100回までローンを設定
ローンの分割金利/手数料はハナジマが負担
- ◆キャンペーン中にエコドライブ ワンを購入した全員に
シチズン社純正コレクションボックス(外装はレザーテイスト。腕時計3本 収納)を進呈

ハナジマ
TEL:03-3652-8740
www.hanajima.com

